

BLM2015 取り扱い説明 ダイジェスト

送信機の設定方法

直接法	・目的のケーブル・配管に直接接続する設地方法、最も探査確度の高い方法。※短絡に注意  送信機に付属のクリップ付コードを接続します。 極性はありません。 ⇒ 一方のクリップを目的の導体に接続します。 ※短絡事故に注意・高圧不可 ⇒ もう一方を地中に挿したアース棒 地面が隣接していなければ分電盤 のアース部に接続します。 ⇒ スイッチを直接/クランプ法 に設定します。
クランプ法	・目的のケーブル・配管にクランプ送信する設置方法、被覆上から信号を送る為 高圧ケーブルに対応する 探査確度は直接法の次に高い  送信機に付属のクランプを接続 します 極性はありません。 ⇒ 目的のケーブル・配管にクランプを 接続します。 ※クランプが開いていないか確認 ⇒ 送信機のスイッチを直接/クランプ法 に設定します。
間接法	・目的のケーブル・配管に誘導で信号を送る方法、広範囲に送信信号を送る為、鉄筋の影響を最も受ける。  送信機のスイッチを間接法に 設定します。 ⇒ 目的のケーブル・配管の上に置き 送信信号を送ります。 目的のケーブルの半径1.5m 以内に設置

BLM2015 取り扱い ダイジェスト

受信機

・直説法/クランプ法/間接法 で送信した信号を受信する時には【探索モード】に設定します。

探索モード



受信機のモードスイッチを【探索】に設定します。

受信機の電源を入れます。

最大の受信感度が得られる場所がこの時、受信感度は最大になります 目的ケーブルの直上になります。

リセット時にも受信感度が最大になります。

・活線状態のケーブルを送信機を使わずに検知します。鉄筋や無電圧線も誘導や回り込みの影響により反応する事があります。

自然波モード



受信機のモードスイッチを【自然派】に設定します。」

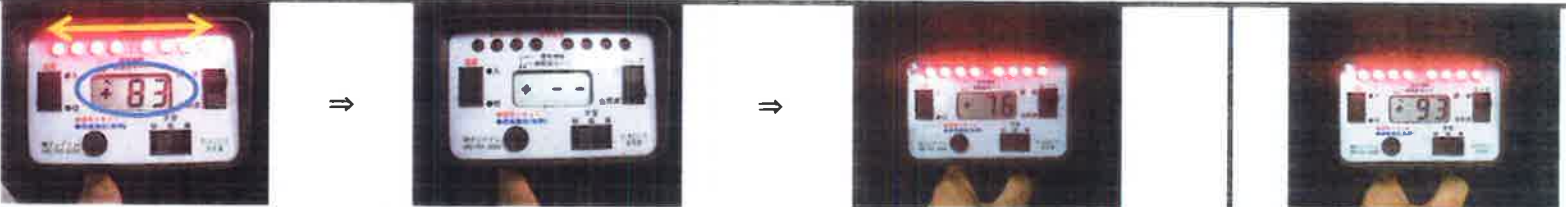
受信機の電源を入れます。

最大の受信感度の得られる場所がこの時、受信感度は最大になります 目的ケーブルの直上になります。

リセット時にも受信感度が最大になります。

・全モード共通

受信機の感度自動調整



感度表示は【数字】【LED】【音】の順に確度が低くなります。

感度調整機能を働かせる為、受信感度の低下がみられる所まで横に移動します。

受信感度の低下が確認できたら、移動した方向を戻り再度感度の低下箇所を確認する。この作業を繰り返し往復作業する事で埋設位置を特定します

探索箇所を移動する時は、必ずリセットボタンを押し感度を最大に戻します。